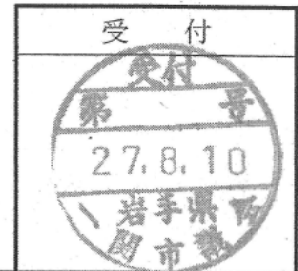


# 報告書

一関市議会議員 千葉 大作 様



報告年月日	平成27年 8月10日	
視察期間	平成27年 7月 8日～平成27年 7月10日	
視察先	北海道 伊達市、旭川市議会、芦別市、小樽商科大学	
視察用務	伊達市 伊達市ウエルシーランド構想について 旭川市 議会改革について (外部有識者による検証) 芦別市 木質バイオマス有効活用について 小樽商科大学 地 (知) の拠点整備事業について	
報告者	(会派名) 緑清会	(代表者) 沼倉憲二
参加者	沼倉 憲二 千葉 満 小野寺道雄 勝浦 伸行	千田 恭平 佐藤 雅子 佐藤 浩 小山 雄幸
報告要旨	1. 視察目的 別紙 (1) 2. 視察先概要 別紙 (2) 3. 参考とすべき事項・所感 別紙 (3)	
主要資料名		

## 別紙（１）

### １．視察目的

- ①一関市の大きな行政課題である、超高齢化・人口減少に関して、都会への人口集中が年々顕著になる中、地域を支える若年層、特にも若い女性の流出が大きな課題となっている中、伊達市が平成13年から取り組みをはじめた、高齢者が安心・安全に暮らせるまちづくり、高齢者のニーズに応えるための新たな生活産業や雇用の場の創出による地域経済活性化の取り組みで成果をあげている「伊達ウエルシーランド構想」に関して研修を行う。
- ②一関市議会で取り組む議会改革の取り組みに関して、旭川市議会が2010年に可決・施行した議会基本条例19条の「議会運営の評価及び検証」に関して、全国でもほとんど例がない、自己評価に加えて外部検証を行っている先進的な議会改革の取り組みについて研修を行う。
- ③当市において、福島原発事故後に高まる、新エネルギーの取り組みに関して、域内経済循環と林業振興を活かし、温泉施設に木質チップボイラーを導入した芦別市の取り組みについて研修を行う。
- ④小樽商科大学では、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」の取り組みとして、「地域と共創する北海道経済活性化モデルと人材育成」が採択され、そのプログラムに沿った活動を進めています。地域の地の拠点と地域経済の連携により、地域経済の活性化に取り組んでいる活動について視察研修を行う。

## 別紙（2）

### 視察先概要

- ・ 北海道 伊達市

伊達市は、北海道の中央南西部に位置し、南は室蘭市、北は札幌市と隣接しており、面積 442.2 ㎏で、人口 36,278 人（平成 22 年）である。厳しい冬の期間が長い北海道にあって、恵まれた気象条件を有していることから「北の湘南」といわれており、周辺町村からの移住が多いが、若年層の都市部への流出が続いています。

- ・ 北海道 旭川市 旭川市議会

旭川市は、人口約 35 万人であり、市議会の議員定数 34 人である。総務常任委員会、民生常任委員会、経済文教常任委員会、建設公営企業常任委員会の 4 常任委員会を有し、常任委員の任期は 2 年となっている。政務活動費は、一人月額 8 万円であるが、費用弁償に関しては平成 19 年に廃止している。

- ・ 北海道 芦別市

芦別市は、北海道のほぼ中央に位置し、面積約 8 6 5 ㎏で市域の 8 8 %を森林が占める豊かな自然に恵まれた地である。明治時代から始まった石炭採鉱により「炭鉱の町芦別」を築いた。しかしその後の、エネルギー革命により、ピーク時 7 万 5 千人余りを有した人口も年々減少し、若者の人口流失により基幹産業である農業・林業も担い手不足から衰退の一途をたどっており、現在の人口は 1 万 5 千人余りとなり、過疎化が深刻な現状となっている。

- ・ 北海道・小樽市 小樽商科大学

小樽商科大学は、1911 年に開学した小樽高等商業学校（1944 年に小樽経済専門学校と改称）を前身とし、1949 年に小樽商科大学、2004 年に国立大学法人小樽商科大学となり、現在に至っています。2011 年には、高等商業学校開学から数えて 100 年を迎える歴史ある大学である。また、現在は大学改革に取り組んでおり、①実学教育の一層の推進とそれを支える教育体制の充実、②グローバルな視点で北海道経済の発展に貢献する人材の育成、③地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組み、北海道経済の活性化に寄与する研究の促進です。

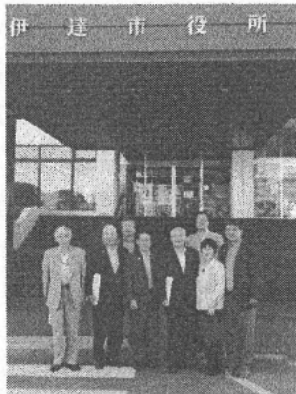
今回は、②と③に関連して、小樽商科大学が文部科学省の補助金「地（知）の拠点整備事業」に採択され、今年度新たに「グローバル戦略推進センター」を立ち上げた事業に関し、視察研修を行った。

## 別紙（3）

### 3. 参考とすべき事項・所感

#### 伊達市 伊達ウエルシーランド構想

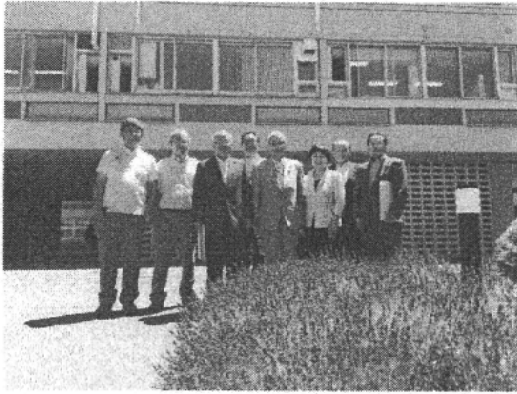
・「ウエルシー」という豊かさ・積極さを意味するウエルシーランド構想は、北海道の湘南といわれる温暖な気候生かし、北海道内外から高齢者を呼び込み地域を活性化させ、人材の育成を兼ねた「人の誘致」を図るというものである。①緊急通報などのサービスを備えた賃貸型の集合住宅を民間主導で供給していること。②市有地を活用し民間事業者が造成、販売をしていること。③高齢者を対象とした会員予約制の乗り合いタクシーの導入事業など、いずれも若手の事業者を中心に官民協働で体制を作り、市がバックアップするというもの。人口減少社会にあって社会増、転入者を増やしている取り組みは参考になるものがあった。



#### 旭川市議会 議会改革について

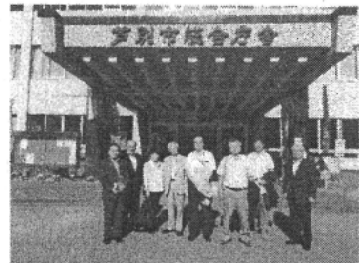
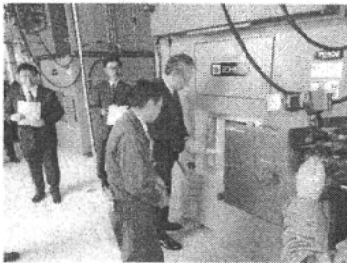
・議会改革の取り組みについて、議会運営委員会委員長、前委員長の二人から直接説明を受けた。

その中で議会運営の評価及び検証の実施要項を定め議員の自己評価と外部評価を実施している。特に大学教授、行政経験者等による外部評価は全国的にも珍しいとのこと。政務調査費の用途については市民の関心は高いが、議会改革についてはそれ程でないこと。また、市民との意見交換会を常任委員会単位で所管に係るテーマをもとに行っていることなどの話が聞くことができた。



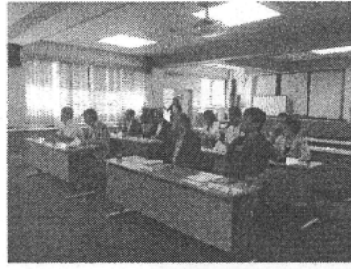
### 芦別市 木質バイオマス有効活用について

- ・ 市域面積の88%が山林という豊富に存在する林地残材等を活用するプロジェクトを構想し、平成22年に総務省の緑の分権改革推進事業の採択を受け、木質バイオマスエネルギーの導入可能性調査を実施。収材・運搬方法、コスト算出、チップ化方法、価格、重油と比較した場合の経済性等を実証調査した結果、林地残材の賦存量に対して利用可能量は12%程度と見込み、市内で最も重油を消費していた公設民営の施設(ホテル、温泉、プール等)の燃料としてチップボイラーを設置している。なお、収集した林地残材は、破碎後のチップ含水率を概ね30%にするためには、工場敷地内の土場で1年以上天日乾燥が必要であること。重油ボイラーはバックアップボイラーとして必要であること。チップボイラーでは電力消費量が増えることなどの説明があった。



### 小樽商科大学 地(知)の拠点整備事業について

地(知)の拠点整備事業は、大学等が行う地域の課題(ニーズ)と大学の資源(シーズ)のマッチングによる地域課題の解決、更には自治体と協働して地域振興策の立案・実施まで視野に入れたプロジェクトを文部科学省が支援するもの。小樽商科大学では、学内公募で31のプロジェクトに取り組んでいる。このうち①竹鶴政孝・リタ夫妻に関するストーリーの観光資源化プロジェクト②キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト③歴史的建造物の保存活用のためのファンド形成プロジェクトについて話を聞くことができた。小樽市のB級グルメの取り組みも大学の教授が中心メンバーになっているとのことなど。大学では、学生を育てるフィールドとして地域・自治体の活用を志向していることが伺えた。



# 報 告

一関市議会議長 千葉 大作 様



報告年月日	平成27年11月20日		
視察期間	平成26年 10月20日～平成26年10月22日		
視察先	長崎県 長崎市 佐賀県 武雄市 伊万里市 大牟田市		
視察用務	長崎市 長崎市包括ケアまちなかラウンジ研修 武雄市 武雄図書館 伊万里市 伊万里図書館 大牟田市 大牟田リサイクル発電所視察見学		
報告者	(会派名) 緑清会	(代表者) 沼倉憲二	
参加者	沼倉 憲二 千葉 満 小野寺道雄 勝浦 伸行		千田 恭平 佐藤 雅子 佐藤 浩
報告要旨	1. 視察目的 別紙(1) 2. 視察先概要 別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感 別紙(3)		
主要 資料名			

## 別紙（1）

### 1. 視察目的

①国が進める在宅看護の方向性や当市が抱える高齢者の増加、介護施設入所待機者の課題、また、医療・介護・福祉に関して、それぞれ独立部署が担当している事業について、「包括的支援機能」の取り組みを行っている、先進地・長崎市の取り組みを研修する。

②財政的な問題や新しい視点から、市の公共施設を民間に委託する指定管理者制度が導入され、当市においても様々な施設が指定管理として委託されています。図書館の指定管理者制度を利用した委託は、全国で1割を超えるまでになり、その是非が問われています。今回、指定管理制度の導入で全国的なニュースになった武雄図書館と市民協働で建設が進められ、自治体の運営として評価の高い伊万里図書館の2館を視察研修する。

③現在一関市では、「資源エネルギー循環型まちづくり」を市の重要なプロジェクトとして位置づけ、事業を進めている。大牟田市は、当市が目指している産業経済省が進める「次世代エネルギーパーク」に認定され、早い時期から「環境に優しい、美しい、住みよいまちづくり」に取り組み、ゼロエミッションに基づく、資源循環型のまちづくりを目指しています。その先進事例について視察研修を行う。



## 別紙（２）

### 視察先概要

- ・ 長崎県 長崎市 包括ケアまちなかラウンジ

長崎市は、人口約４３万人で、豊かな資源と良港に恵まれ発展してきた商工業都市である。現在は、「明治日本の産業革命遺産」において、産業遺産「端島」（軍艦島）をはじめとした多くの資産を有する街として、注目を集めている。今回視察を行う「長崎市包括ケアまちなかラウンジ」は、「医療支援機能」に加え、介護・福祉の相談等の「包括的支援機能」を併せ持つ総合相談窓口である。

- ・ 佐賀県 武雄市 伊万里市

視察先 武雄図書館 伊万里市民図書館

ある調査で、「全国の図書館職員が憧れる図書館」として、アンケートを全国の公共図書館に行った結果、２位となった「伊万里図書館」そして、６位にランクインした「武雄図書館」の両図書館は、佐賀県の西南部に位置し、両図書館は、車で３０分程度の場所に立地しています。武雄図書館は、全国的に注目を集めたCCCの委託による指定管理制度で、大きな成果をあげています。また、伊万里図書館は、名称から見ても分かる通り、市民協働で、まさに市民が手作りで作り上げた図書館である。

- ・ 福岡県 大牟田市

視察先 大牟田リサイクル発電所

大牟田リサイクル発電所は、大牟田エコタウンの一面に位置し、ゴミ焼却によるダイオキシン類対策と余熱発電（サーマルリサイクル）を目的として、RDF（ゴミ固形化燃料）の焼却施設と発電施設を設けている。

### 3. 参考とすべき事項・所感

#### 長崎市包括ケアまちなかラウンジ

- ・ 長崎市医師会が、国のがん対策のモデル事業として進めてきた「長崎がん相談支援センター」が平成23年3月で終了することを受け、「長崎市第4次総合計画」における「地域医療体制の充実」と合致するため、長崎市が事業主体となり、発展的に事業を継承したものが「長崎包括ケアまちなかラウンジ」である。
- ・ 主な事業内容は、病気や障害により療養を余儀なくされた患者やその家族が、安心して療養の場所を選択し生活ができるよう、これまで行ってきた「医療支援機能」に加え、介護・福祉の相談等の「包括的支援機能」を併せ持つ総合窓口である。



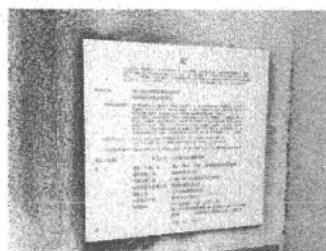
- ・ 高齢化は、当市の大きな市政課題であり、特にも介護・福祉の課題は、多くの市民にとって大きな心配事である。医療と介護、そして健康問題は、患者や家族が住み慣れたまちで、地域で暮らしていく際、様々な問題に直面します。その際、様々な問題を解決する最後の砦は、市行政であるが、実はそこまで行く前に相談すべきことは多くあり。最後の砦である市行政の機能が縦割りで機能している時、市民が気軽に様々な相談をワンストップで相談できる「長崎まちなかラウンジ」のような事業は、非常に優れた取り組みである。
- ・ 数年ごとに大きく変化する介護政策、介護保険制度の改正は、市民にとって非常にわかりにくい。患者やその家族の様々な悩みや疑問に対して、少しでも不安な気持ちを和らげたり、疑問を解消し、サポートを行っていくためにも、在宅医療に携わる関係機関との協力を得ながら、このような相談窓口を持つことは非常に意義深いものと感じた。
- ・ なお、余談となりますが、長崎市議会においては、議会活動（市町村の視察を含め）をフェイスブックにより、市民や様々な方々に情報発信を進めています。

## 武雄図書館・伊万里図書館

- 武雄図書館に初めて訪れ、大きなカルチャーショックを受けました。人口5万人の市の図書館に、多くの都市の主な駅前にある有名チェーン店のコーヒーショップがあり、その斬新な建物と指定管理を進めるにあたりリニューアルしたと説明されたその施設は非常に斬新であり、どこか首都圏の新しい施設に迷い込んだような感覚におちいりました。



- また、図書館の運営を CCC (カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社) が指定管理者としてその運営に委託を受けてから、来館者数がおよそ、25万人から90万人、貸し出し利用者数が、8万人から16万人、貸し出し冊数が34万冊から54万冊へとそれぞれ、313%、186%、114%と増えたことについて説明を受けました。
- その後、市民図書館として全国的に有名な「伊万里図書館」を視察して、両図書館を比較しながら視察することができたことは非常に有意義でした。両図書館の視察にあたっては、大きなご配慮をいただき、どちらにおいても図書館長に説明を受けることができました。

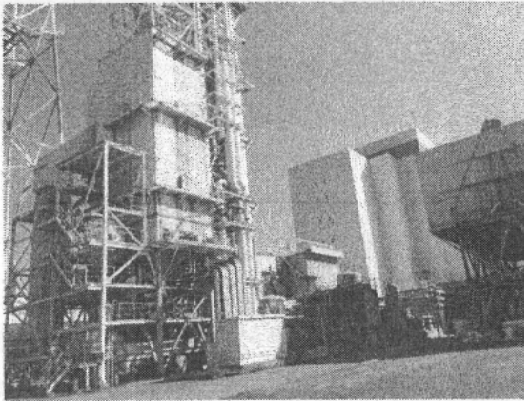


- 今、CCCによる図書館委託運営が全国的に話題となっている時、グッドタイミングで視察できたわけですが、新一関図書館がオープンして1年余りが経過し、今後の運営に対して非常に大きな勉強をすることができました。
- 特に、「伊万里市民図書館」の古瀬館長がインタビューで語っている「今、図書館が果たすまちづくりの面に注目が集まっているが、本来、先にまちづくりがあるのでなく、人づくりが先なんです。人が育つことでまちが育つ」という記事が頭をよぎりました。武雄図書館は、市内居住者の利用率が約50%であること、そして、伊万里市民図書館は、その運営に多くの市民ボランティアが継続して関わっている事。どちらも、正しいという問題ではなく、市民にとってどのような運営がいいのか、市民

とともに考えながら、一関市は「教育立市」としての図書館を市民とともに作り上げ、全国から注目される図書館を作り上げていく事ができる可能性をあらためて実感しました。

### 大牟田リサイクル発電所

- ・ RDF 発電は、小規模市町村において製造された RDF を広域的に収集する事により、単独の市町村では対応が難しかった高温で安定的な連続燃焼が可能となりました。また、RDF は、通常のごみと比較して発熱量が高く、ハンドリングが容易であり、内無循環式ボイラーにて熱効率の向上を図り、高効率の発電を行っている。この施設では、およそ一般家庭約 30,000 世帯分の使用量の電気を発電している。



- ・ このリサイクル発電所は、大牟田市エコタウンの一面にあり、「大牟田リサイクルプラザ」「大牟田・荒尾 RDF センター」「大牟田エコセンター」と共に、4つの公共関連施設を中心に環境リサイクル事業を展開しています。その取り組みは、1998年に国（通産省・環境省、当時）が進めた環境・リサイクル産業育成と地域振興を結びつけた制度を活用し認定を受けたエコタウン地域である。福島原発事故後、改めて、新エネルギーの取り組みや原子力発電の是非、そして電力自由化といった大きな社会変化と市民意識の変化の中で、改めて、地域のエネルギーのあり方を考える機会となっている。当市においては、ゴミ処理問題が大きな市政課題とはなっているが、その枠を越え、大きな視点から、地域の資源を活用した地域エネルギーのあり方、廃棄物の再利用の最新の処理方法を検討し、人口減少社会、そして、厳しい財政事情の中で、「ゼロエミッション構想」を念頭に置き、どのような選択肢が正しいのか、しっかり議論を深めていくことが必要である。